

第十一号

びっくり! エコ新聞



京都大学超SDGs学部プラスチック専攻 新入生募集!

めざせ! 博士(ドクター)。きわめよう! プラスチックのこと。

2020年3月14日(土)~15日(日) 10:00~17:00 (所要:30分~5時間)

場所: 京都大学 (受付: 総合研究8号館)

対象: 小学生をはじめとする次世代の方々 (募集定員: 各日200人)

参加費: 無料

SDGsやプラスチックについて、色々の授業を受けると、京大SDGs博士に認定されるよ!

入学にあたって 学部長(Dr & Prof.くす)からのメッセージ

今、地球・日本・京都は、様々な課題を抱えており、その解決のためには、若い方々の知恵と力が必須である。そこで、わたしたちの生活や環境を持続させるためのあらゆる研究・教育・社会貢献活動を行う「超SDGs学部」を始めようとした。特に早急に取組が求められる「プラスチック」の持続可能な付き合い方について考え、行動する「プラスチック専攻」については、2020年3月14日・15日に集中講義を行う。

入学にあたってのお願い / マイボトル、ハンカチ、マイ箸などをご持参ください!

- SDGsやプラスチックについて、専門家から学ぶ。
- 京大生や、なかなか会えない専門家に、自分の意見を言う。
- 自分の得意なことだけでなく、不得意なことにも挑戦できる。
- 作って持ち帰ることができる作品等もある。
- 京都大学に入れる。
- 博士に認定された証明がもらえる!

楽しくて、役に立つ 講義が盛りだくさん!

講義には「必須科目」と「選択科目」、「課外学習」などがあります。博士号取得に必要なそれぞれの単位数を確認して、計画的に受講してください!

必須科目群

- 自転車をごいで飲める水に... (水質改善)
- 間伐材からマイ箸を作ろう... (資源活用)
- ヒアリング調査実習 & ミニテスト

選択科目群

- Tシャツをエコバッグにリメイク
- 海ごみから楽器を作ろう

課外学習

- SDGsボードゲーム同好会
- SDGs食歩き部
- 体育会系みず部

ぬいぐるみフィギュア集めます!

思い出のつまったぬいぐるみは、なかなか手放せませんよね? でも、片付けなければならぬと思っている人に嬉しいお知らせです。プラ博会場にて寄贈いただきました、次の持ち主を探して活用させていただきます。詳しくは裏面をご覧ください。

＜回収日時・場所＞
3/12(木)・13(金) 京都大学芝蘭会館
3/14(土)・15(日) 京都大学総合研究8号館
3/12(木) 13:00-17:00
他の日は10:00~17:00

入学手続き(参加の流れ)については裏面を見てね▶

毎日新聞@京都大学支局オープン子ども記者募集!!

SDGsを知って学んで、新聞でみんなに伝えよう!!

対象: 小学校高学年(5~6年生)

日時: 3月15日(日) ①10時~12時 / ②14時~16時の2回

会場: 京都大学総合研究8号館

定員: 各回10名

参加費: 無料

応募方法: 氏名(ふりがな)、学校名、学年、郵便番号、住所、年齢、性別、電話番号、参加人数、保護者の氏名、参加希望時間の番号を順書し明記。

応募先: メールアドレス mainichievent@daimai.com

締切: 3月11日(水) 17時まで

問い合わせ先: 06-6346-8661 (平日10時~17時)

※応募者多数の場合は抽選。当選の方は後日、詳細をお知らせします。

※応募いただいた個人情報(当選のご連絡以外には)は使用いたしません。

※お持ちのデジタルカメラやスマートフォンをご持参ください。

当日、撮影した写真をプリントアウトして新聞に使用します。

SDGsボードゲーム同好会 新登場ボードゲーム「ゲット・ザ・ポイントSDGs」体験会

小学生からSDGsの基本を楽しく学ぼう!

みなさんの周りにはさまざまな資源から作られた物があふれています。では、どんな資源だと、なくならずにずっと使い続けられるのでしょうか? SDGsの基本である資源の持続可能性を、資源を使ってアイテムを作り、ポイントをゲットしていくボードゲームで楽しく学びましょう!

対象: 小学校3年生以上 (それ以下の方は保護者同伴でお越しください)

日時: 3月14日(土) ①10:30~12:00 ②13:30~15:00 ③15:30~17:00

※各回とも30分前からオリジナルの計算カードゲーム「ミューズ」を体験できます。

会場: 京都大学総合研究8号館

会費: 各回先着20~40名 (ただし、見学は自由です)

※事前予約された方を優先しますが、空きがあれば当日参加も可能です。

参加費: 無料

応募方法: 裏面にある入学手続き時に、事前予約していた場合は、備考欄に「ボードゲーム同好会+①~③:参加希望時間帯(優先順)」を記載ください。

サイエンスアゴラ in 京都 第3回 京都大学”超”SDGsシンポジウム&博覧会

「プラスチックと持続可能性」

2020年3月12日~15日 会場/ 京都大学 (地図をご覧ください)

◆=子どもでも参加しやすい企画 ★=プラやSDGsに関する展示、体験企画など ※詳細や最新情報はWEBへ (https://eco.kyoto-u.ac.jp/)

3/12(木)	3/13(金)	3/14(土)	3/15(日)
芝蘭会館	芝蘭会館	総合研究8号館	総合研究8号館
<展示・体験> ◆12:30~19:00/展示、体験企画など(★) ◆13:00~17:00/ぬいぐるみ回収 <シンポジウムなど> ●13:00~15:00/おむつの未来・ステックホルダー会議 ●15:00~17:00/PET削減、マイボトル普及の最適解へ! ●17:00~19:00/「環境対応してたら、会社潰れてました!」とならないために。	<展示・体験> ◆9:30~19:00/展示、体験企画など(★) ◆10:00~17:00/ぬいぐるみ回収 <シンポジウムなど> ●10:00~11:00/企業トークセッション(仮) ●11:00~12:00/毎日新聞社 写真部記者(山崎一輝)による取材報告「2019ナジエリ報告 終わらぬ恐怖~世界の子どものために~(仮)」 ●13:00~15:00/京都大学プライド会議 ~専門家が語る「ごみ」 ●15:00~17:00/近畿経済産業局主催~SDGs集中講座~「プラスチック製品のより持続可能な使用(仮)」 ◆17:00~19:00/SDGs教育座談会~こどもからおとなまで~	<展示・体験など> ◆10:00~17:00/京都大学超SDGs学部の講義プログラム ◆9:30~18:30/展示、体験企画など(★) ◆10:00~17:00/ぬいぐるみ回収 ◆17:00~18:30/衣(ころも)とSDGs ◆17:00~18:30/かえてきた超SDGs道場	<シンポジウムなど> ●9:30~12:00/海洋環境、プラスチックに関する国際動向と海外から見た日本の現状【一部英語】 ●12:30~15:00/FraU・朝日新聞 500人の大編集会議 ~かしこくプラスチックと付き合うために~ ●15:00~17:00/持続可能な地域の実現に向けて~2025万博のSDGsサテライト会場に~

京都大学超SDGs学部参加の流れ 入学登録(参加受付)

事前予約・当日飛び込み、どちらも可能です。WEBから事前予約される場合

- 事前: 下のQRコードから応募フォームにアクセスして、参加希望日時や参加者情報を入力してください。この時点で、絶対に受けたい講義を希望することもできますが、必ずしも受講できる訳ではありませんのであらかじめご了承ください。
- 当日: 当日会場内の受付にて、お名前をお伝えください。
- 当日: 受付にて参加講義を確認の上、問題がなければ履修手続きを行ってください。

当日飛び込み参加される場合

- 受付前: 基本情報をフォームにお書きください。
- 受付にて、講義内容を確認し、受講希望内容を検討してください。
- 受付にて参加講義を確認の上、問題がなければ履修手続きを行ってください。

ぬいぐるみ・フィギュア集めます!

- 以下のもので、「次の方がそのまま使える」「自分が使う・遊ぶのに不自由しない」ものをお持ちください。
- 3辺の合計が100cm以内の大きさのものをお持ちください。
- 小さいサイズのものが多い場合、袋などにまとめてください。

※ご寄贈いただいたものは、こちらの専門的な判断でリユース販売を中心に最大限活用いたします。また、お持ちくださったものはご質問の上、譲渡させていただくとみなします。ご返品等は対応致しかねますのであらかじめご了承ください。

ぬいぐるみ	フィギュア	プラモデル	プラおもちゃ
キャラもの・動物・キーホルダー・景品など	キャラもの・シルバニア、リカちゃん人形、メルちゃん、フィギュアつきペットボトルキャップ など	車・ガンダム・戦艦 など ※組み立て前可。組み立て後のものは破損しないよう、梱包してください。	幼児用のおもちゃ・ミニ四駆(パーツ・コース含む) プラレール、鉄道Nゲージ(レール含む)、LEGO ブロック
【回収できないもの】 自立つぼ、汚れ、カビ、ほこりのひどいもの 破損、欠品 日本人形のガラスケース 電池は取り除いてください 大きなサイズのもの(3辺の合計が100センチ以上) 枕やクッション			

メッセージや投稿も歓迎! ぬいぐるみや、送り主、次に使われる方へのメッセージを書き添えていただくのも歓迎です。

お名前などはわからないように、何らかの形で紹介させていただく場合があります。また、ぬいぐるみや、ぬいぐるみの写真、思い出の写真をSNSに投稿していただきます。

#京大プラ博 #エココン #リユース #イベント #タグ付けてください! 京都大学のWEBに掲載したいものはメールにてecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jpにお送りください。

「プラスチックごみ問題」とは?

なぜプラスチックが問題?

プラスチックの主な原料は石油ですが、石油は地球上に限られた量しかなく、再生産できない資源です。世界中で大量に使われれば、いずれなくなってしまう。また、大量のプラスチック製品がごみとして捨てられることで、海や土など自然環境を汚染しています。

対象となるプラスチックは?

レジ袋やストローの削減が進められていますが、これらはプラスチック製品のほんの一部。実はスマホなど機械の部品や文房具、衣料品等々、身の回りにはプラスチック利用製品があふれています。問題は、その大部分が削減やリサイクルの対象として認識されていないことです。

どうやってプラスチック利用を減らす?

製品によって減らす方法もさまざま。レジ袋やストローなど使わないで済むものは使わない、衣服や家具などの素材の製品があるものはプラスチックが使われていないものを選ぶ、パソコンやクレジットカードなど代わりになる素材が開発されていないものはできるだけ長く使う、というようにそれぞれの製品に合わせた方法で利用量を減らすことができます。また、食品トレイや梱包材などは分別回収を利用すれば環境負荷を軽減できます。みんなでプラスチックとの付き合い方を話し合ってみましょう。

日中(中日)青少年環境漫画交流プロジェクト 「プラスチックごみ問題」をテーマとした漫画作品募集!

日本でも中国でも環境問題が深刻化していることから、マンガ作品を通して両国の若者の環境への意識を高めるとともに、環境問題を中心とした交流を進めようとして、中国と日本の環境や芸術の専門家らが共同で「日中青少年環境漫画交流プロジェクト」を作りました。

プロジェクトの第一回企画として「プラスチックごみ問題」をテーマとしたマンガ作品を募集しています。テーマについてよく学習したうえで作品を作り、ご応募ください。

昨年10月14日のプロジェクト発足ミーティングで、京都府環境政策推進課長は、「若者に人気のマンガがお互いの交流を進め、環境への理解を深めるのは、素晴らしいアイデアです」と、挨拶しました。

応募資格/大学・高校・中学・小学生、留学生、海外からの応募も可

募集マンガのテーマ/プラスチックごみ問題

募集要項/①一コマ/コマ割りあり、新作/旧作、カラー/白黒のいずれも可
②作品はデータで提出ください
③画像ファイル形式:JPG、画素DPI=300以上、サイズ=A3
④作者の名前(必須)と作品紹介(任意)を明記すること

応募締め切り/2020年4月20日

審査員/高月純先生、牧野圭一先生、尾池和夫先生、竹宮恵子先生ほか、日中の著名漫画家及び研究者(一部予定)

受賞作品(日中各60点)は、日中の教育施設等における巡回展、作品集の出版、SNS等による発信等を予定しています。優秀作品に選ばれた方には、京大グッズなどを贈呈予定です。詳しくは、https://eco.kyoto-u.ac.jp/をご覧ください。

質問及び投稿先(メール)/日中環境漫画展 ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp

問い合わせ/京都大学浅利研究室 075-753-5922

連絡協力: 国語センター 啓発施設ほたる

NEWS

「京都市プラスチック資源循環アクション」発表！

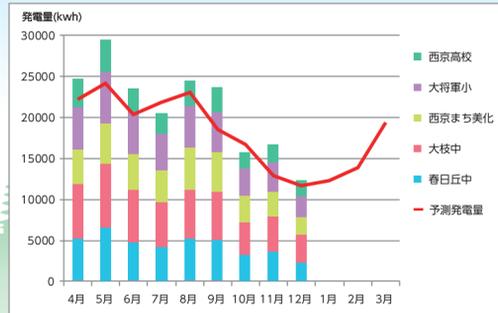
プラスチックの海への流出量が年々増え、生態系を含めた海洋環境への影響が心配されています。京都市はこれまでも、世界的な問題となつている海洋汚染の防止のほかごみ減量、地球温暖化対策、生物多様性保全等を図るため、ペットボトルやプラスチック製容器包装の分別収集、レジ袋の有料化、マイボトルの推奨など、プラスチックの利用削減リデュースの取り組みを続けてきました。それらに加えて2019年10月、すぐにすべき12の取組をまと

- ① 小売店におけるレジ袋の無料配布禁止(有料化の徹底)
- ② 市内給水スポットの情報発信
- ③ 多数の方へ見えやすい啓発およびイベント等の給水機の設置
- ④ 製品プラスチックのリサイクルに向けた検討
- ⑤ 国内への働きかけ
- ⑥ プラスチック製容器包装の分別啓発指導の強化
- ⑦ 使い捨てプラスチックの削減のための資金キャンペーンの実施
- ⑧ 情報発信、製品開発に係る事業者の支援
- ⑨ 排出事業者に対するプラスチックごみの発生抑制、分別指導の支援
- ⑩ 啓発物品の調達に係る使い捨てプラスチックの削減に関する方針の策定
- ⑪ イベント会場における使い捨てプラスチック製品の使用禁止
- ⑫ プラスチックを使わない優れた京もの情報発信・利用促進

め「京都市プラスチック資源循環アクション」を発表！

「京都市プラスチック資源循環アクション」は、プラスチックの海への流出量が年々増え、生態系を含めた海洋環境への影響が心配されています。京都市はこれまでも、世界的な問題となつている海洋汚染の防止のほかごみ減量、地球温暖化対策、生物多様性保全等を図るため、ペットボトルやプラスチック製容器包装の分別収集、レジ袋の有料化、マイボトルの推奨など、プラスチックの利用削減リデュースの取り組みを続けてきました。それらに加えて2019年10月、すぐにすべき12の取組をまと

びっくりエコ発電所活動レポート



京都市市民協働発電 2019年度発電実績

京都市市民協働発電の取組ですが、当団体は5ヶ所の施設で行っております。2019年4月から2019年12月までで予測発電量に達しなかったのは、7月と10月ですが、12月までの予測発電量に対しては112.1%と順調に推移しています。引き続き、施設の発電状況をモニタリングし、事業の安定的な運用をしております。

supported by

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学地球環境学堂 浅利研究室
びっくり！エコ新聞事務局
 Mail: ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp

京都市がCOP25・2050年正味ゼロを世界へ呼びかけ

2019年5月に京都市がホストシティを務めたIPCC(気候変動に関する政府間パネル)第49回総会を記念して開催したシンポジウムで、世界平均気温の上昇を1.5℃以下に抑えるために、日本の自治体首長が初めて向かい、京都市市長が山崎謙久、京都大学学長が原田晴昭、環境大臣(当時)らとともに「2050年CO2排出量正味ゼロをめざす覚悟を表明しました」。

京都市は、2019年12月にスペインで開催された国連気候変動枠組条約第25回締約国会議(COP25)に参加し、日

エコ〜と京大、受賞相次ぐ！

環境負荷を低減する持続可能なキャンパス(サステナブルキャンパス)の実現をめざして多彩な活動を展開しているエコ〜と京大(学生中心の団体)が、2019年、プラスチック問題に対する取組によって「第1回Green Blue Education Forum(主催: Green Blue Education Forum実行委員会 共催: 文科省若手職員 環境省(優秀賞と特別協賛 アサヒロンスティック賞、廃棄野菜や野菜くずを利

用した料理を提案したはみ出し野菜プロジェクトによって「第1回食ロスエクト」SDGs FOOD ACTION AWARDS(主催: スター食堂株式会社、共催: 京都府)で伊勢丹賞を受賞し

本先進的な自治体の中で、2050年ゼロをめざす行動が広がりをみせつつあることを伝え、世界中へ野心的な行動を広く呼びかけました。京都市が宣言したとおり、1年間で約4割が2050年正味ゼロをめざす行動を開始した地域で生活しています。この広がりを、日本全体の温室効果ガス削減目標の積み重ねにつなげていくことが期待されています。

高校生がSDGsカレー開発! 2019年度ELCAS講座



京都大学が高校生向けの体験型学習講座として実施しているELCASの一環として、浅利美鈴准教授(地球環境学堂)は19年度、カレーという身近な題材を用いて、さまざまな切り口からSDGsへのつながりを考え、SDGsに親しみ行動してもらうことを目的に、「持続可能なSDGsカレーの開発」講座(連続6回)を行いました。

参加者9名は、最初にSDGsについての説明を聞き、SDGs個々の目標、基礎的な知識、世界観や特徴を学習したのち、「使用する食材」「調理の過程」「提供の際の工夫」のすべての観点からSDGsを達成しているカレーレシピの開発ワークに挑戦。ワークの工程ごとに、「プラスチック」や「せっけん洗剤」「食と持続可能性について」などのレクチャーを受けてSDGs関連の知識を広げつつ、3種類のカレーを完成させ、最終講座ではカレーパーティーを開いて招いた留学生や小学生たちに振舞いました。

参加した高校生たちの感想は、「SDGsが街中のいたるところにあることに気づいた」「必要なプラスチックもあるという話が印象に残っている」といった、日常生活とSDGsとのつながりを意識したものが多く、今回のELCAS講座は、高校生たちがSDGsへの関心を深める契機になったのではないかと手応えを感じました。

元町学区エコ活動「プラスチック問題を考える学習会」

2019年7月14日(日)、元町学区エコ活動「プラスチック問題を考える学習会」(主催: 京エコロジーセンター)を京都大学で実施し、小学校1年生から中学生の約20人が、京都大学地球環境学堂の浅利美鈴先生やエコ〜と京大メンバーの支援を受け、エコなカレー作り挑戦しました。

まずは出町・栢形商店街でカレーの材料をゲット! タップを使って豆腐やお肉(削り)もあり、新聞紙で野菜を包んで、全てエコバッグに入れて買い物完了。できるだけ旬のものや地元産の食材を選びました。続いて調理へ。野菜を皮ごと食べるカレーを作りながらごみの量を調べると、なんと、普段の買い物や作り方に比べて、ごみが1~2割に激減! 各班がこだわって味を整えたカレーは、とてもおいしくなりました。

食後はマイクロプラスチック・海洋プラスチック問題について、京都大学地球環境学堂の田中平先生に教えていただきました。研究室で使っている顕微鏡でマイクロプラスチックを見たときには、みんな大興奮! 問題を解決するために自分達ができることも真剣に考えました。その後の質問タイムでは、たくさん手が挙がりました。「海がプラスチックで一杯になるまでどれだけ時間がある?」など、先生も困ってしまうような難しい質問も!

プログラムの最後には、一人ずつごみを減らすための「行動宣言」をし、地域に広めていこうと話しました。



安朱小学校

京都市立安朱小学校(山科区)の5年生は、「SDGsの観点から『安朱の魅力を守るために私たちができること』を考え、行動目標を決めて実践し、気づいたことや考えたことをポスターにして発表しました。」

同校では、2017年度から5年生が「SDGsの17の観点から地域を見つめ直すマップ作り」を通してSDGs学習に取り組んできました。

今年度の5年生は、6年生から自分たちが取り組んだSDGsについて話を聞いたり、7月に京都大学地球環境学堂の浅利美鈴准教授からSDGsを深く知るための授業を受け、自分のこととして目の前の事象と向き合い、考えていくことの大切さを学習。そこで得た知識をもとに、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」ために、安朱の地域で自分は何ができるかを考え、17項目のうちそれぞれ自分の行動目標を決めてキーワードを作成しました。そして、実際に取り組みを行い、「行動目標12: 食品ロスをなくすよう努力している。冷蔵庫の中を、消費期限の早いものを手前に並べ替えるようにしている。それだけでなく、前より多くいなくなった」「行動目標7: 限られた資源をどう無

駄なく使うのか。使っていないコンセントを抜く、1回1回電気を消す、できることを家族みんなで話し合った」など、「うまくいったこと」「難しかったこと」を書き出していきました。こうして実践で気づいたこと、体験することで見えてきたことをもとにポスターを作成し、11月の山階小学校5年生との交流会で発表しました。

この実践学習で、子どもたちは「SDGsを達成するために自分にもできることがある」ということを学びるとともに、学んだことをポスターにするという作業を通して、「人に伝える発信の仕方」についても学習しました。

今後、学んだことをもとに、地域と共に「フードドライブ」の活動をしたり、学びを深め発信したりしていく予定です。

安朱小学校が令和元年度の京都環境賞を受賞!!

京都市立安朱小学校は、ESDやSDGsの視点を盛り込んだ環境教育を実施したこと、マレーシアの小学校と環境を巡る相互交流を目的としたこと、ホテルの保全を目的とした清掃活動や地域と連携して植栽活動に取り組んでいることなどが高い評価を受け、令和元年度第17回の京都環境賞(大賞)を受賞し、昨年12月に京都市役所で表彰を受けました。



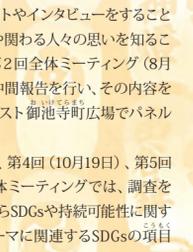
祇園祭創始1150年記念プロジェクト こんちきジーズ 2019年度活動報告

2019年5月~12月にかけて京都大学(エコ〜と京大)と京都市が共同で取り組んだ、「こんちきジーズ」の活動には、大学生と社会人合計約60名が参加しました。

5月12日のキックオフミーティング、6月1日の第1回全体ミーティングでは、三若神輿会吉川幹事長のお話を聞くなどして、SDGsや祇園祭についての基本的な知識や考え方を学びました。またミーティングの間の期間も、それぞれが、毎日SDGsの各ゴールに対してできることに取り組む「一日-SDGs」を行いました。その後、学生・社会人混成の10グループに分かれ、それぞれ「技の伝承~こんちきちゃんから学ぶ祇園祭千年の秘密~」や「祇園祭を軸とした次世代型幹町コミュニティのあり方」、「女性と祇園祭の関わり方」などのテーマを設定しました。

祇園祭の期間(7月~9月)には、グループごとに祇園祭のこれまでの変遷や現状を調査しました。文献調査に加え、山鉦保存会や関係者の方々アンケートやインタビューをすることで、祇園祭の意義や関わる人々の思いを知ることができました。第2回全体ミーティング(8月10日)では調査の中間報告を行い、その内容をまとめて、10月にゼスト御池寺町広場でパネル展示を行いました。

第3回(9月6日)、第4回(10月19日)、第5回(11月16日)の全体ミーティングでは、調査を通して学んだことからSDGsや持続可能性に関する議論を行い、テーマに関連するSDGsの項目



梅小路小学校

京都市立梅小路小学校(下京区)の6年生は、「『持続可能なまち』をキーワードとし、SDGsの17の目標を視点として、梅小路のまちを見直す活動を行いました。」

こと、発見したことをレポートにまとめて、12月4日に留学生に向けて英語で発表しました。

今回のSDGs学習を通して、子どもたちは「地域の方が『お客さんや利用する人のために行っておられること』『企業として大事にしていること』が、SDGsの目標を達成することにつながっていることを知り、それが梅小路のまちのよさであることに気づきました。

また、子どもたちの学習活動は地域の人のSDGsへの関心を呼び起こす効果をもたらし、学校には「今回の調査訪問を機に、SDGsの本を買って勉強した」「子どもたちと話をして改善点を見つけた」といった声が寄せられています。

6年生は、前年から取り組んできた地球環境問題に関する学習、地球環境学堂の浅利美鈴准教授やR.バース先生から受けたSDGsに関する授業をベースに、「自分たちのふるさとである梅小路校区のよさを知り、よりよまにしていこう」という課題で、「総合的な学習の時間」の学習を進めています。

10月30日には、6年生たちが4グループに分かれ、京都大学で学ぶ世界の留学生たちとともに、「七条センター商店街」「西本願寺」「京都水族館」「島原地区」を訪れて、学区内のSDGsポイントを調べました。これは注意深く観察し、「窓にスタレがしてある。これはエネルギー削減になっているから、項目10」「古い町家が残されているのは、住み続けられるまちづくりに当てはまるから、項目12」というように、17の目標に関連しているところを次々と発見。商店や施設への訪問では、「照明をLEDに変えた」「割れのある木も、チキリを入れて家具に加工して販売している」など、SDGsを意識して行なっていることや工夫している話を聞きました。この調査で気づいた



を考えると、「1150年間で変化してきたこと、変化しなかったこと」を分析し、SDGs17項目や国連が示す2030年という年限にとどまらず持続可能であるためにはどのようなことが必要か、検討しました。

12月14日に開催した成果発表会では、門川市長や祇園祭山鉦連合会の岸本吉博理事、山口敏一事務局長にもご参加いただき、調査結果や考察したことを各グループが漫画やダンス、絵画などさまざまな形で発表。心理的な側面に着目し祇園祭が続いてきた理由を探究した班は、「使命感や義務感に加えて、現代はやりがいや楽しさが重視されている。続ける意思をいかに持つかが持続可能な社会の実現には大切」との考察を述べました。発表後には参加者全体で、SDGs18番目のゴールを考えるワークショップを行い、プロジェクトを通して考えたことを活

かしつつ、新たな目標についてアイデアを出し合いました。

プロジェクトを通して、時代とともに変遷をへながらも続いてきた祇園祭から、これからの社会や暮らしを持続させるためのヒントを得ることができました。(文責: 京都大学農学部2年生 奥野真木保)

※こんちきジーズとは/千年にわたり、全国・全世界の平和や安寧を祈り災害への鎮魂や自然への畏敬の念を携えて続けられてきた祇園祭の理念を再認識し、その価値を広く発信するとともに、祇園祭から学んだことをもととして人々の暮らしや心の観点から、持続可能性・SDGsの理念と意義を考え、SDGsをアップデートするための提案を行うプロジェクト。

